

厚生労働大臣政務官に就任

～舛添大臣と「政治主導」貫く～

◆官房副長官から深夜に電話

8月28日午後11時半、携帯電話が鳴りました。「官房副長官の大野松茂です。厚生労働大臣政務官が内定しました。おめでとうございます」おめでとうという言葉とは裏腹に、背筋に緊張が走りました。参議院で与野党が逆転する中、年金問題などを巡り、もっとも激しい攻防が予想される厚生労働省の政務官に、衆議院2期生最年少の私が選ばれるとは、思いもしませんでした。

今回の内閣改造人事で、厚生労働省は舛添要一大臣のもとに、副大臣2名、大臣政務官2名が任命されました。厚生労働省は厚生省と労働省が統合されてできた役所ですが、副大臣、大臣政務官は、それぞれ厚生担当と労働担当で役割を分担します。

舛添大臣の「自民党厚生労働部会長代理の経験を生かしてください」との意向で、厚生担当（医療、年金、介護）となりました。社会保険庁の改革など、課題は山積しています。担当が決まった瞬間、また身が引き締まりました。

◆厚生労働省に革命を

30日、官邸で安倍総理から正式に辞令を受け取った後、厚生労働省に初登庁しました。初日の日程は、記者会見、幹部との挨拶、全職員への訓示や打合せなどでした。その中で私は、次のように述べました。

「戦後初めて、参議院で与野党が逆転した以上、臨時国会における政治の動き、また特に課題の集中する厚生労働省の政策は、まったく未知の局面に突入します。省庁では何かと各部署のメンツが重んじられますが、目先の省益より、国民の皆様から安心と尊敬を得られる厚生労働省としての名誉を重んじて頂きたい。厚生労働省に革命が起きた、と国民の皆様と思われるような変化が求められています。そんな厚生労働省を共につくって参りましょう」

今後、舛添大臣としっかり話し合い、これまでの慣例にとらわれない「政治主導」の改革を推し進めていくつもりです。地元の有権者の皆様には、率直なご意見を宜しくお願い申し上げます。



「政治主導で厚生労働省を変えていこう！」。舛添大臣とともに厚生労働省の改革を誓う松浪ケンタ。

【大臣政務官とは】

平成13年の省庁再編にともない、従来の政治任用ポストであった政務次官は権限も小さく役割も不明確であったため、新たに副大臣と大臣政務官が置かれることになった。それ以前は、官僚の答弁を大臣答弁に代える事ができたが、国会審議における質疑は基本的に、大臣と副大臣、大臣政務官に対して行うものとなった。

副大臣は大臣不在時に大臣の職務を代行し得るのに対し、大臣政務官にその権限は与えられていない。また副大臣と異なり、大臣政務官は天皇による認証は受けない。英語表記は、副大臣は Senior Vice-Minister、大臣政務官は Vice-Minister となる。

道州制、福祉を語る!!

大阪JCCで道州制訴え

大阪JCCで、ライフワークである道州制についての講演をしました。道州制の行革効果や経済波及効果、さらには次世代にツケを残さない社会保障制度をいかに築くかという観点からお話をしました。



医事懇話会で講演

医事懇話会（大阪府下の医師による勉強会）で、講演をさせていただきました。療養型病床の転換問題や終末期医療について、専門家の皆様と突っ込んだ意見交換をすることができました。

